

濱島 祐子

B：宮城県コース

仙台空港に降り立った時、海岸線の辺りは工事中でしたが、空港内は活気があり大阪でニュース等で知る情報よりは復興している印象を受けました。その印象は、宮城で缶詰工場を営まれている木村さんの話を聞いて思っていた程、前向に復興に向かって進んでいる訳ではないことを知りました。復旧は済んだが、どの様に復興するか全く先の事が見えていない、そんな印象に変わりました。会社を立て直そうとしても風評被害でものが売れない。そのため雇用が生まれません。

また、今は無職の方が補助金で楽なくらしができる等々、会社を営んでいく人にとってはとても厳しい環境で何を目標にすれば良いか分からなくなる様な状況だと感じました。また、最近、頻繁に報道されていることですが、復興の為に国家予算が全く別のものに使われているというのがありました。今、東北で会社を立て直そうとしても全く見通しが立たない、労力の無駄と思える状況で、予算が他に流れてしまったのではないかと新しい認識を得る事が出来、私自身、現在の悪循環の中、会社を立て直そうとされている方の力になる為には何をすれば良いか、この2日間、色々考えました。

私自身、東北の産品への見方を震災の前後で変えた事はありません。むしろ気にしていなかったというのが正直なところです。しかし、今後は産地を気にして買ってみよう。自分が気づかないだけで知らない間に区別して東北の物品を避けている人々が関西地区には多くいると思うので、その人々に今の東北の直面している状況と無意識に差別しているという事を気付かせてあげる事が、私に出来るほんの些細な協力だと思いました。最後に被災地を見て廻るだけでなく、東北のこれからの為に働いている方のお話を聞いたことは私にとって励みになりました。末筆ながら、今回の研修を企画してくださった方々にとても感謝しています。ありがとうございました。